

# リポート 東構協

2008年(平成20年)

新春号

[第17号]

発行 東京鉄構工業協同組合  
〒104 東京都中央区八丁堀3-9-5 KSビル6階  
-0032 TEL 03(5566)1595  
FAX 03(5566)1597

▶平成20年賀詞交歓会



## 何処に行ったのか 技術立国・日本

理事長 池田 英敏

そこに未来がある限り、歩みを止めず動きつづける必要に迫られる。

昨年、技能オリンピックが日本で数十年ぶりに開催され、世界の多くの技能者が競い合った。年々、日本の金メダルの獲得率が低くなっているが、かつての日本国は世界に冠たる技術立国としてその技術が高く評価されていた。それは資源を持たない国として技術の蓄積が不可欠であったからだった。

現在、諸外国にその地位を奪われ、日本の凋落ちようらくぶりは目を覆いたくなるほどである。例えば、隣の韓国では国策

事業として若年労働者を支援し、国をあげて技術力を磨いている。また、優勝者には将来の人生設計が保障されているという。他方、日本では、中小企業の企業体が寺子屋と称して共同で資金を出し合いながら、定年退職した大手企業の技術者を講師に招いて研修を行っているが、比較的余裕のある企業でしか出来ない体制にある。各企業はそれぞれの企業の技術伝承もさることながら、企業の負担もずっしりと肩に重くのしかかっている。また、それをやらなければ淘汰も避けられない。技

術立国であった過去の日本の貪欲な姿勢と眼差しは、どこに行ってしまったのか！！

「疾風に勁草を知る」という言葉があるが、不況時に技術を持っているのと、いないのでは雲泥の差があり、定年を過ぎてもなお技術者として企業に、社会に貢献している方々は数多い。私たちにはこの技術を後継者に伝承して行かねばならない使命があり、志あるものは、やがてそこに自分の輝きを見つけ、人生を全うすることができるだろう。

本年は、昨年後半から引きずっている不景気風を払拭し、景気が少しでも良くなるように心より祈念しながら、組合活動に数多く参加されますことを切にお願いすると共に、組合事業へのご協力、ご支援をよろしくお願い致します。まして皆様へのご挨拶とします。

(池田鉄工社長)

## 組合理事役員 年頭の挨拶



副理事長  
総務・広報委員長  
松田 清明

## 現代中国人気質

PHP総合研究所が「日本の対中総合戦略」研究会を立ち上げ、過去の歴史と現在を認識し、2020年までの中国の動向を予測し、その中国に対してどのような戦略を持って日本が向かいあって行くべきなのか、同時に日本が目指すべきアジア地域の秩序とはどのようなもので、その実現のためにはどうすべきなのか、議論・検討をしてきて、このほどその提言をまとめ、ホームページ上に公開された。読んでみると面白いし、勉強になる。

さて、高尚な話はPHPにおまかせし、こちらは中華の国から見れば東方の野蛮人だから、それなりの話をする。毛沢東共産党が蒋介石国民党を追い出し（国共内戦）、反右派闘争に勝利し、一党独裁体制を敷いてからの中国は文化大革命の混乱等、紆余曲折を経ながらも経済の自由化を進めてきた。しかし、思想の自由化要求は断固拒絶した。鬱屈した多くの中国人は、もともと功利主義に徹した民族であるらしく「金・金・金」の拝金主義に墮し、そこでは仁とか慈とかはもはや死語となってしまったようだ（日本人もそういう輩が増えてきた）。それはそうだろう。7000万人の共産党員が国家・地方・軍の要職と、金融を含む企業のトップと資本の大部分を支配し、株式市場に株を小出しに放出して値をつりあげる、不動産市場を過熱させ買えば値上がりすると信じさせて虎の子をはたかせ、なお過大な借入金を追いかぶせる。こ

れでは拝金主義にもなる。一昔前に日本でも起こったバブルとその崩壊、そして、ついこの間のアメリカのサブプライムローン問題、十分すぎる反面教師があるにもかかわらず対策はないに等しい。中南海では昨秋5年に一度の第17回党大会が開催され共産党王朝の権力闘争が激しく行われたことだろう。表に出てくればさぞかし面白い見世物だろうに。バブルがパンクして民衆の拝金主義が満たされなくなった時、この王朝の主人公たちはどうなるのだろう。年始早々つまらない話をして失礼しました。（松田鋼業社長）



副理事長  
経営近代化委員長  
武田 忠義

## 陰極まって陽生ず

今年は良い年にしたいと考えているが、経済環境は一段と厳しさを増していくようにも感じられ、まずは現状をしっかりと認識する必要があるようだ。昨年から話題になっているアメリカのサブプライムローン問題は、最近の経過を見る限りでは、日本のバブル崩壊より深刻な状況になるかもしれない。投資商品として証券化されすぎている（150兆円とも言われるサブプライムローン残高の約8割が証券化されているという）ことで被害の実態が十分把握できていない恐れもある。また、この問題に端を発する世界同時株安によって世界経済や金融市場が大混乱に陥り、日本でも株式市場が大きく下落して景気に減速感が出てきた。しかし、日本の政府は、株式市場の混乱收拾についてまったくのアメリカ頼みで無為無策。なんとも恐れ入る次第だ。いずれにせよ、日本がバブル崩壊後の立て直しに払った犠牲や、費やした労力及

び時間を考えると、世界中に影響が波及しているサブプライムローン問題とその余波が解決するのはいつになることやら先行き不透明な状況だ。

さて、「先行き不透明」とくればすぐに連想されるのが、日本における改正建基法の影響だ。国交省などは回復傾向にあることをしきりに強調しているが、実情については皆さんの方がよくご存じだろう。実際、建築確認の遅れによる住宅着工数の大幅な減少の影響は相当深刻だ。07年における企業の倒産件数は1万件を超えるそうだが、その3割を建設業が占めているという。こうした改正建基法の影響に加え、原油高、サブプライム問題の余波としての景気減速のトリプルパンチで中小や地方の企業が倒産する可能性がますます高まってくるのではないかと。

年始早々、どうも暗い話ばかりしてしまい恐縮だが、このような時期こそいざれきたるべきチャンスに備えてキャッシュフローを重視し、その時が来たら一気に投資を行える態勢を整えておくことが一番だと個人的には考えている。皆さんはどう思われますか？ピンチをチャンスに変えることで「この一年いろいろあったけど、いい年だったなあ」と振り返ることができるようにしたい。いや、われわれ皆で力を合わせてぜひそういう一年にしてやろうじゃありませんか。

（叶産業相談役）



副理事長  
共済事業委員長  
Mグレード部会長  
池谷 春夫

## 競争と協調が大事な時

われわれは、鉄骨業界という同じ土俵の上に立つという意味では、ライバルである。お互いを意識してそれぞれ

が切磋琢磨しながらそれぞれの技術や強みを伸ばし、他社との差別化が図れれば業界全体のレベルの底上げになり、業界の発展に寄与することになる。当然のことながら、ライバルとは、角付き合わせて足の引っ張り合いをするような関係ではない。本当の意味でのライバル（好敵手）とは、競争関係にありながらお互いの存在がよい刺激となり、技術・知識・身体能力などをより高めようという意欲が生まれ、「成長」という名の好ましい変化を促進するものと言えよう。そしてこのような関係は、あからさまにはせず内心密かに抱いている相互の尊敬と信頼の上に成立することは言うまでもない。

さて、上記に「土俵」という言葉を使ったので、相撲界を例に見てみると、相撲人気の高かった時代にははたいていライバル同士の熱い戦いが観客を沸かせていたものだ。ところが、つい最近までは朝青龍のまさに一人相撲により面白みに欠け、相撲人気の下落に拍車をかけたのではないか。ほかならぬ私自身、実力伯仲の横綱同士が手に汗握る勝負を展開し、勝負の行方をハラハラしながら見るのを楽しみにしていた身にとってかなり物足りなく思い、相撲界の衰退を嘆くのも分かる気がした。だが、この間の朝青龍対白鳳の対決には久しぶりに血が沸いた相撲ファンも多かったのでは。こうした勝負が毎回見られれば失われた相撲人気を取り戻すのも不可能ではないだろう。朝青龍と白鳳がお互い相手に負けじと技を磨き、好勝負・名勝負を繰り広げてくれることを期待するとともに、日本人力士の成長をも併せて望む。それこそが相撲界全体の繁栄と発展につながると思う。

これは、われわれの世界にも当てはまることだ。おなじ業界にいる以上、時には利害の衝突もあるだろう。しかし、そんな場合にもいいライバルとし

ての関係を維持しながら、お互いの技術を磨いて品質で勝負していきましょう。一部で安値受注に走っているところもあると聞き及んでいるが、そんなことをしていれば他人の足を引っ張るところか自分の首を絞めるだけ。そんなことをせずとも、本当の意味でのライバル関係にあれば、相互の尊敬と信頼に基づいて一つの目標に向かって協調することもできるはず。とくに、需要低迷、工賃の伸び悩みなど現在のようにならぬ業界全体が苦しい環境にある今がまさに協調が必要とされるときだ。情報交換を密にするなど協力できるところは互いに協力し、この厳しい時代を乗り切ろう。

(日東鉄工取締役本部長)



副理事長  
教育・技術委員長  
森 明

## 新製品

私はかつて、伝統の技術を守り育てる専門教育を授かり、金属工芸科の門を18歳で門出した時、日本はようやく敗戦の痛手から、必死に立ち上がらんとしており、戦後の復興を担う若き戦士として世に送り出された一員であった。以来、自分の手先一つで創り出す美術工芸品の、創作の励みと喜びを求めるがごとく、物づくり業の道一途に50幾年を過ごし、昨年おかげさまで古希を迎えさせて頂いた。

若い時に授かった教を次の若い世代の人々にお返ししたく願いつつある時、昨年、東構協が主催する東構塾の講義の依頼を受け「発明」の話をした。おりしも、業界にあつては25度開先溶接の特許技術の応用の指導が実施され、それぞれの企業がいかにかこれを取り入

れて自社の新技術の確立を行い、業績に反映され、若い技術者の働き場となることが期待される。ここに言う、「新技術」とは題目の「新製品」と同様、新しい発明がこれを実現している。そして、この「新」という言葉の響きこそ明日の発展に向けて、我々を奮い起こさせる妙薬であると言いたい。革新の激しい時代にあつて、先んじて革新の波に乗るには自らを奮い起こさず何物かが必要である。絶えず自社が先を行っていると言う自信は、何物にも打ち勝てる大きな力になるからだ。

昨秋、ある商業展示会で久しぶりに新製品を発表することが出来た。たしかにある建設プロジェクトで採用を確定できた新製品だが、それ自体にはそれほど大きな増益を見込めるものではない。しかしながらそれに関わった社員は大きな自負心を抱き、社内に明るい話題を投じることが出来た。この新製品を実現する発明と私の関わり的一端を、東構塾で聞いて頂いたのだが、発明そのものが、そんなにお金の儲かるものでないことは、むしろその発明そのものより「新製品」という言葉の響きを、伝える魅力にあることをお伝えした。また、売り物になる発明は百に一つもないこと、しかし百回の発明の努力をすれば一つは報われる時がくる、要は何時も発明を心がけること、試す勇気が必要であること。塾では「はぜ釣り合せ機」から商品の第一号とした「プレスジョイント」、充電式ドリルを利用した「ポータブルスクリー」などの実物例もご披露した。

かくのごとく仕事や商売の物だけ発明しようとししないで、遊び心も活用してみても話した。ドクター中松が「よく入るバター」を発明した話も有名だ。物づくりの原点は創意にある。常に新しい創造を試み、新技術を究め、誇りある生業を目指しましょう。

(日本鉄構建設工業会長)



副理事長  
耐震補強委員長  
飯田 歳樹

## 今年地球温暖化防止対策を

私の今年のテーマは、去年実行できなかった弊社での地球温暖化防止対策である。まずは、実行可能な範囲ですぐできることから取り組むよう各社員の家庭で、会社全体で環境について意識改革をしてもらうかが先決問題。

「わかっちゃ、いるけど止められない」では地球が危ないという認識のもと、以下のことを会社全体の今年の課題とする。

- 1) 工場内の無駄な電燈や動力に気付いたらすぐにスイッチを切る。
- 2) 組立て用パーツは間近に置き、クレーン使用時間を短縮する。
- 3) 裏ハツリ溶接物件およびスチールタブ仕様物件は受注しない。
- 4) 溶接機メーカーに対し、垂れ流しCO<sub>2</sub>半自動溶接機の代替シールド機能の開発を早急に提案、要望する。
- 5) 環境に配慮し、加工トン数にこだわらず減収増益物件のみの選別受注に徹底すること。
- 6) 車通勤は極力避けること

上記6項目をどれほど実現できるか楽しみだ。

東構協の皆さん、クリーン東京ファブが環境問題に関してリーダーシップをとっていけるよう頑張りましょう。

(飯田製作所社長)



理事  
佐々木義弘

## 努力が報われる年

今年は子の年、蓄財の良運をもたらすと伝えられている年である。中国では60年に一度の金鼠年にあたり宝・福を呼び込むとともに、生命力にあふれる1年だと言われているそうだ。昭和11年3月生まれの子年で72歳になる私も何とかこの良運にあやかりたいものである。

恒例のことだが、新年を迎えて頂いた年賀状を1枚1枚拝読しながらそれぞれの出合いを思い出し、今年もまた良い出合いができることを願う。

さて、世情はどうかというと、相変わらず混沌としており、先が読めない年明けとなった。建設業界も色々な面で大変な年となるのではないかと。

また、自分はどうかというと、昨年は、売上高が前年より30%アップして通年の仕事量は120%を達成できた。今年も、4月頃までは工事量100%、5月までには図面も決定してくると思われる。そこでわれわれはどうするか。今年こそ長年お引き立て、ご指導頂いた方々に恩返しをする年にしたいものだ。まず「できない」という言葉は東京建鉄にはない。第1に工期、第2に価格。まず、3年計画で始めた工場用地取得。今年中には確定工事量を50%アップし、価格面でも横持ちをなくしてライン化することで10%のコストダウンが可能だろうし、何が何でも実現したいと思っている。

昨年までと違い、どんな小さな工事であろうと工程管理第一に、技術・技能・品質管理力に関して全員で努力し、より良い製品をより早く適正価格にてお客様にお届けすることを目指している。次に、私どもは長年の願望でもあるMグレードへ昇格することができ、設計事務所あるいは建設会社の方々の強い要望に応えることができた。

07年4月に性能評価を、07年7月に国土交通大臣の認定書No.TFB-070441にて認定をいただき、手にした時は社員揃って拍手。「手をつなぎ良く努力

し頑張ったな……」と色々なことが思い出される。とくに「勉強しているか。試験はどうだった」が私の口癖となって顔を見れば言っていたそうだ。

私どもでも誇れるところが一つある。創業1963年(昭和38年)から今年で45年間、無事故でやってきた。これからも社員全員、安全第一に無事故を続けていきたいと願っている。

こうしてみますと、私も72歳になり、そろそろ若者たちにバトンを渡して外から会社を見るのも良い時期だと思っている。社員の育成はもとより、いかに魅力ある工場にし、労働環境をどう改善していくかなど不安と楽しみがいっぱいのも夢多き72歳。

今年も仕事にゴルフにマージャンに多くの人との出合いを楽しみにしている。少し暖かくなりましたらゴルフにでも誘ってください。

本年も安全第一に頑張っていきたいと思います。

(東京建鉄社長)



理事  
前田 昭男

## 節約と浪費

一般的に企業では長年の不況続きも手伝い、利益向上のためというよりは生存を賭けて無駄の排除、物、金、時間をはじめとして全てに対して徹底した節約を標榜し、日々これに努めているところが多いのではないかとと思う。言ってみればケチケチムードといったところである。これに対して世間一般の生活面では割合に大らかなところがある。もちろん、節約ということは大抵の人の頭にあるのだが、企業で行われているほどには徹底されていない感じで、また社会全体の浪費に対するや

り方が節約とは反対の方へ向いており、どちらかというとな浪費を勧めているような感じである。節約の上手な人が尊敬されるよりも煙たがられたり、嫌われたりする傾向がある。それどころか「私は要らなくなったものを平気で捨てられる」といって自慢している人もいる。月並みの言い方かもしれないが、今更ながら私どもの小さかった頃とは何だかずいぶん違った世の中になってしまったものである。

今後は、資源不足、環境問題、その他の問題により今のような浪費がしたくてもできない、そしてまた人類が知恵を出して浪費をしなくても普通に暮らしていける社会を作っていけるように徐々に変わっていくと期待するが、とにかく新品同様の品物を捨てたり、特に自給率40%以下といわれる食料を食べ残して大量に捨ててしまうというようなことは何とかならないものか。ちなみに食べ残しなど廃棄される食物が年間700万トンの出そうだ(インターネット調べ)。どこかで見たような数量だと思ったら、わが国の鉄骨生産量に近い数字だ。鉄骨業界の生産量が残飯の重さと同じとは何か複雑な気持ちになりませんか。年の初めに思うまま。

(前田製作所社長)



理事  
R・Jグレード部会長  
杉本 豊

## 前向きの姿勢が大切

昨年はR・J部会ならびに西地区会活動へのご協力を頂き、御礼申し上げます。年末から新年にかけての小恐慌ともいえるアメリカのサブプライムローンならびに、確認申請の遅れにおけるわれわれ業界への影響は、ある程度予定はされていたが、現時点での仕事

量の激減は、予想をはるかに超えるダメージを受けており、今こそ地区・グレード同士の団結、協力、情報交換をし、共存共栄に向かって進んで行きたいと思っている。暗い時こそ決断を早くし、明るい顔で次の事を考える前向きの姿勢が大切だと思う。

現在の鉄骨業界におけるプライスマーカーは、海外進出・ロボットにおける効率化・地域性によるコストダウン・どれをみても東京にいる私達零細ファブには出来かねる事ばかり。逆に東京の特性を生かした機動力・単価に見合った仕事をしていくべきだとも思う。バブル崩壊後15年以上耐えに耐えてきた業界であり、今回の冷えた状態も各々対策を考えて乗り切れるよう頑張りたいと願っている。昔から商売は商いといい、飽きないで続けて行く事が肝心だと先人は申し伝えている。この言葉を信じ、確かな仕事をしていく事こそが私達の仕事ではないか。そして私たちの手で未来のある仕事をしていきましょう。

(一本木鉄工社長)



理事  
鈴木 貴久

## 「不動心」

例えば、行きつけの高級寿司屋のカウンターで…、もちろん架空である(笑)。隣にどんな有名人がいても気づかぬふりをする斜に構えたタイプである。例えタイガーウッズや中田英寿であっても。しかし、それが長嶋さんであったなら、バックに新品の硬球がないことを人生最大のミスと悔やみ、2ショットの撮影を震えながら懇願し、当然、来年の年賀状はその写真に決まり、大いに自慢する。そうは言っても、

恐らく緊張してオロオロしているだけかもしれない。そんな熱狂的な者だからこそ、松井秀喜選手の本「不動心」での長嶋さんのエピソードは素敵だ。

現役時代の掛布選手が調子を悪くして、長嶋さんに電話でアドバイスをお願いした際、真剣に受話器の前で何度も素振りさせて指導したという。松井選手自身も毎回素振りの音が指導の基準であったとも書いている。まさしく長嶋ワールドである。

松井選手は星稜高校のOBだが、この練習場に貼ってあった言葉を、今も大切にしているようだ。いい言葉である。それは…、心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる…というもの。

人の心や過去はコントロールできないけれども、自分の未来はコントロールできると強調している。インタビューで感情をあらわにしないのは、過去に引きずられたくないからだそうだ。彼はそういう平常心であの骨折を克服したのである。

ところで、松井選手はこの本について「心の交通整理が必要な時に役立つかもしれない」と書いている。こうした謙虚な言葉に人柄が表れる。

もはや、気づかぬふりはあり得ない、松井秀喜選手の「不動心」を超お勧めします。

(那須ストラクチャー工業専務取締役千葉工場長)



理事  
中川内伸吉

## 青年経営者委員会の活動

東京鉄構工業協同組合で現在自分は、理事及び青年経営者委員会副幹事長、

東構塾世話役を担当させて頂いている。

東構塾においては、今年で第2期4年目を迎える。塾生も東京、神奈川、長野、新潟と合計32名の大所帯となった。塾長の古藤先生には、毎回いろいろな企画を考案して頂き本当に感謝申し上げたい。この勉強会を通し、各所で活躍されている様々な方と親交を通じることが出来たのもこの会の意義だと思う。また、東構塾の楽しみは、勉強会終了後の古藤先生を交えた飲み会。皆の悩み事や、先生の裏話まで時間の尽きることがない。残り1年となったが、さらに友好を深め新しい友人を作っていきたいと思う。

また、事務局の渡辺さんには、毎回会場の予約などに苦勞して頂き有り難く思う。この1年間もよろしく願いたい。

自分は今年で46歳になるが、まだ青年経営者委員会に所属している。青年という年齢の範囲は通常20歳から35歳位ではないかと思うが、いまだに青経委に入っていたいのは、情報や交流また仕事のやり取りなど、とても有意義な会だからだ。何事にも本音で話せるので仕事のストレスを発散できるのもこの会の特徴だと思う。

近い年齢で、同じものを作り、同じ悩みを抱え、上司には親父という怪物が存在し、多少息抜き出来るのがこの場所だと思う。ただ息抜きばかりでな

く勉強会などもしっかり行っている。見積り講習や、昨年はタイのMCS工場見学などを行った。皆さんの会社に二世や三世、娘婿、幹部候補生など、いましたらぜひ青年経営者委員会の人会をお願いしたい。青年経営者委員会を「中年委員会」にしないで下さい。

(中川鉄工所社長)



理事  
角鹿 茂

### モノづくりの基本を忘れない

去年の世相を象徴する漢字として、「偽」の字が選ばれたように、07年の後半は、全国的に話題になったものだけでも牛肉メーカー（某Mホープ）、お菓子メーカー（某A福、白いK人）、老舗肉亭（千場K兆）からエレベーター用鋼材メーカー（某Fテック）まで偽装問題が目白押しの状況だった。とくに、食品業界ではMホープ以降、偽装問題が相次いで明るみに出たわけだが、そのMホープによる牛肉偽装が発覚した日付が何と6月20日。奇しくも改正建築基準法の施行日と同じ日とは、何たる巡りあわせだろうか。われわれにとってもある意味で運命の日とも言

えるわけで、食品業界と鉄骨業界にとって6、20ショックは終世語り継がれ、いずれは歴史の教科書に載るのでは（そんなはずないか）！

さて、年も改まったことだし新年は心機一転し、フレッシュな気持ちでスタートしたいと思っていた矢先、製紙会社による偽装が次々に発覚した。その名も「エコ偽装」。再生紙の古紙配合率を偽装し、環境に配慮した製品の使用を国に義務付けているグリーン購入法に定められた配合基準を満たさない製品を、各省庁に納入していたという。またかという気持ちで一杯だ。

これらの事件に共通して言えるのはモノづくりの基本をなおざりにしたということ。モノづくりの基本とは、看板に偽りのない確かな製品をお客様にお届けすることにある。それが実行できていけばこそ、作り手・職人は己の技術に誇りが持てるというものだろう。昨今、コンプライアンスがどうとか横文字で小難しいことが言われているが、そんなことは言われるまでもないこと。要は確かな製品を粛々と作っていくのみ。客先の信頼を裏切るようなことは断じてNGだ。一度失った信頼は完全には回復しないと肝に銘じつつ、私もモノづくりに携わる一人として、これからも己の誇りを汚さぬよう確かなモノを作り続けていきたいと思う。

(角鹿鉄工社長)

### 管理責任者兼務規定見直しを全構協を訪れ、要望書提出

当組合は12月、性能評価基準における「品質管理責任者の兼務の取り扱い」の恒久的運用を目的に全構協を訪れ、全国M及び全国R・J部会連絡会の連名で山本康弘会長あての要望書を提出した。①M、R、Jグ

レードの工場では少数精鋭による経営体制のもと品質管理責任者が品質管理技術者を兼務している場合が多い②こうした体制が中小規模の工場に適合し、品質管理体制として十分機能している③兼務が認められない場合、多くの企業が管理技術者の雇用など負担の増加により経営を左右されかねない——等を理由として基

準運用の見直しを要望した。



## 各委員会報告

### <総務・広報委員会>

組合員名簿の発行（07年10月）11月送付 今回の名簿には、各委員会の委員名簿を掲載した。全組合員をどれかの委員会に割り振りした。委員会への協力をお願いします。

### <共済事業委員会>

07年4月に従来の賛助会員に代わり、「協力会」が発足した。現在、22社が入会。11月に協力会会員名簿を、協力会会員取り扱い商品のカタログ等と一緒に送付。協力会会員取り扱い商品の購入、ご利用をお願いします。6月23日（土）、24日（日）に一泊2日の組合員との合同の親睦旅行（鬼怒川温泉）を実施した。

■共同購買 作業用革手袋：取り扱い；協力会員の富士見興業(株)に変更（サンプルご入用の方は事務局まで）・鉄骨製作工場名表示板（取り扱い：協力会員の美鈴印刷紙工(株)に変更）少し安くなりましたので、工事現場には出来るだけ掲示するようにしましょう。

### <教育・技術委員会>

06年4月に実施した超音波探傷試

験技術者に関するアンケートの結果、組合主催の受験のための講習会の希望が多かったため、JIS超音波探傷試験技術者受験者を対象に2007年春季試験から実施した。

### ■2007年秋季試験の結果

学科講習：レベル1・8月28、29日、レベル2・9月11、12日 一次(学科)試験：レベル1：4名受験・4名合格、レベル2：3名受験・2名合格 実技講習：12月17、18日 於・富士工業岩槻工場 二次(実技)試験：レベル1：4名受験・2名合格、レベル2：2名受験・2名合格

今後は、JIS技術者対象の講習は、春季試験対応の年一回とする。

### ■固形エンドタブ量検定試験

07年2～3月に3年目の更新試験と新規試験を行い、6月1日付で認定証を発行。今後も、3年ごとに更新試験と新規試験を行うこととする。次回は、2010年4月開催予定。

### ■鉄骨製作管理技術者講習会

07年10月6日（土） 総評会館  
受講者 1級：145名 2級：118名

### <経営近代化委員会>

3県交流会の実施 おもな議題：首都圏鉄骨工事の情報交換 07年8月28日（火）、ホテル ラングウッド（荒川区・日暮里）出席者 千葉県：10名、神奈川県：6名、東京：

11名 計：27名。活発な意見交換が行われ、有意義であった。

### <耐震補強対策委員会>

今年度も、委員会所属企業の受注した工事は多く、組合財政に貢献した。山積調整を行い、工事を融通し合い、組合員で消化するようにした。

### <Mグレード部会>

理事会開催前に開催 各月の部会員から提出された情報集計表をもとに山積調整、情報交換。

### <R・Jグレード部会>

各月の部会員からの情報集計表を集計し、全部会員へ情報を提供する。現在、情報集計表の提出が思わしくない。情報量が多いほど情報の精度が上がり、有用な情報が提供できますので、全員のご協力をお願いいたします。

### <全国M、全国R・J共同事業>

性能評価基準における「品質管理責任者の兼務の取り扱い」（兼務可とする）についての要望書を両部会長の連名で全構協会長あてに、提出（07年12月21日）。1月29日付にて全構協会長から、兼務の実態を調査の上、慎重に検討するとの回答を得た。

### JSCA東京に共同陳情 適正な工場認定の指定求める 東京都の鉄骨ファブ4団体

設計図書における適正なグレード指定や経営基盤の強化、社会的な地位向上などを目指し、中小規模ファブを代表とする東京都の鉄骨ファブ団体が結束して7月11日、日本建築構造技術者協会東京（略称・JSCA東京）の山辺豊彦代表（山辺構造設計事務所社長）に要望書を提出した。JSCA東京に要望したのは、当

組合R・Jグレード部会、鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会、鉄工団体連絡協議会の4団体代表ら。世話役として当組合の池田理事長も参加した。

対応したJSCA東京の山辺代表に、組織団体の違いの説明とともに当組合は「適正なR・Jグレード指定に関する要望」（設計図書への大臣認定工場の記載について）、他の3団体は「適正な東京都鉄骨加工登録工場の分類の指定に関する要望」をそれぞれ提出。設計図書における大

臣認定や都登録工場の特記記載について、耐震補強工事など技術的な対応のほか、規模に相当する鉄骨ファブの適正なグレードや分類など構造設計業界への認識に対し、さらなる理解と徹底を強く求めた。



## 理事役員会報告



### ◆1月理事会◆

□1月23日、ヒルトン東京□

池田理事長あいさつで、「鋼材の高騰に伴い、見積りには細心の注意が必要だ」と値上げ価格の転嫁問題を強調した。理事会では、全国R・Jグレード部会連絡会の通常総会を4月13日に名古屋で開催することを報告。また審議事項では、理事会終了後、開催される組合設立20周年記念祝賀会・新年賀詞交歓会について出席者と次第、担当役割を確認。また、組合通常総会の5月15日開催、さらに都庁への4団体請願の実施を決定した。

### ◆2月理事会◆

□2月19日、組合会議室□

組合独自のJIS超音波探傷試験技術者・受験のための講習会や固形エンドタブ溶接技能者技量検定の実施日や参加人数、講師など確認。R Jグレード部会の活動活発化のためにMグレード部会と合同でR Jグレード部会を開催することにした。

賛助会員の入会メリットを引き出す方策として、組合協力会会則(案)を協議し、「協力会の活動を推進させていくためにも総務・共済委員会から分離、新たな共済委員長のもとで活性化を」との意見に従って、総会までに新委員長を決めることにした。

### ◆3月理事会◆

□3月20日、組合会議室□

組合独自で実施した超音波探傷試験技術者・資格取得講習会や固形エンドタブ技量検定試験の実施結果など各事業委員会の活動報告が行なわれ、このうち固形エンドタブ技量検定試験については森教育・技術委員長を中心に施工試験体の確認方法の検討に着手、関連して試験要領の見直しに入ることを決めた。

現状報告で見積り件数、仕事量が減少、鋼材やボルト、亜鉛めっきなど材料関係の価格が軒並み上昇するなかで、肝心の受注単価が伸び悩んでいるとする意見が大勢を占めた。

### ◆4月理事会◆

□4月24日、組合会議室□

全国Mグレード連絡協議会の総会(6月23日、栃木県鬼怒川)の開催に合わせ親睦旅行を兼ねた行事の実施を決め、Mグレード会員がメインとなり、具体化を図ることにした。組合独自の超音波探傷試験技術者資格取得講習会に関連して、実技講習について足立鉄骨工業会から共同実施の要望があり、6月の共同開催を決めた。固形エンドタブ技量検定試験の結果も発表され、追試・再試験者を対象とした技量試験を5月に飯田製作所で開催することになった。

### ◆5月理事会◆

□5月28日、銀座キャピタルH□

賛助会員で構成する東京鉄構工業協同組合協力会を当日の総会で会員紹介を行なうことにした。同協力会は今年3月に正式に発足。会員数6社から22社に増加、今後は組合共済事業委員会と連携しながら財政の健全化の一つの施策として強力に共同購



買事業を推進していく。また、超音波探傷試験技術者・実技講習、組合員親睦旅行と東構塾Ⅱ期(第2回)、など当面の行事予定と、その内容が説明された。

### ◆6月理事会◆

□6月21日、組合会議室□

組合活動の強力推進のため、総務・広報、共済、教育・技術、経営近代化など各事業委員会の副委員長や委員のほか、各地区会の副地区長を選任。組合独自の超音波探傷検査技術者・実技講習会(6月14、15両日開催)、固形エンドタブ技量検定再試験(5月19日開催)の結果を報告した。『東構塾』(古藤塾長)は、8月に工場(大三製鋼)見学会、10月には他県組合理事長による講話を予定していることを明らかにした。

### ◆7月理事会◆

□7月17日、組合会議室□

指定確認検査機関指定準則の改定に伴う全国鉄構工業協会の組織体制について、活発な意見交換を行った。

日本建築構造技術者協会・東京(山辺豊彦代表)への陳情の際、組合教育・技術委員会(森明委員長)との勉強会の開催を申し入れたことを明らかにした。また、改正建築基準法の施行で確認申請件数が停滞、これに伴い仕事量が減少していると、組合員相互の山積み状況など活発に情報交換する必要性を確認した。

### ◆9月理事会◆

□9月18日、組合会議室□



池田理事長はあいさつで、物件の停滞で先行きが不透明な現状に触れて、「このような時こそ、山積みの平準化など仕事を融通しあうことが大切。情報の交換や組合員の一層の相互協力が求められる」と強調した。

審議事項で小久保鉄工の新規加入を全会一致で承認。なお、理事会開催前には合成スラブ工業会の福田雄一・技術委員長（JFE建材・主席技監）を講師に招き、合成スラブの勉強会を開いた。

#### ◆10月理事会◆

□10月23日、組合会議室□

法改正に伴う需要の停滞のほか、予定物件の確認申請の認可順延と材料の手配、立替え費用など多く課題を抱え、厳しい受注環境にあることを確認。池田理事長は「建築基準法改正で鉄骨ファブ業界の仕事量が激減、深刻な状況となっている。確認申請でS N490Aが多くなり、市中



手配が困難。工期も決定しているのに、材料手配に苦勞するというのが現状だ」と述べ、材料手配・納期確定後の受注契約について注意を呼びかけた。

#### ◆11月理事会◆

□11月27日、組合会議室□

性能評価基準における「品質管理責任者の兼務の取り扱い」で協議、全国のMグレード部会連絡協議会とR・Jグレード部会連絡会との連名で、全国鉄構工業協会会長あての要望書提出を決めた。超音波探傷試験技術者2次試験実技講習で12月17、18両日の富士工業（さいたま市）での開催を報告。入門講習（実技含

む）のほか、東京足立や鉄団協との共同実施を承認した。固形エンドタブ技量検定資格、鉄骨製作管理技術者受験準備講習のほか、安全や経営講習も実施の方向で検討していく。

#### ◆12月理事会◆

□12月21日、組合会議室□

新年賀詞交歓会の式次第および司会等の人選のほか、「工作しやすい鉄骨設計 第3版」勉強会の開催について審議し、構造設計者らにも参加を募って研修会を行うことを決めた。

報告事項として全構協・第2回理事会で決定した性能評価業務の分離独立で「全国鉄骨評価機構」を立ち上げる新会社の概要などが説明された。また、教育・技術委員会からは「組合主催の各種講習会についてのアンケート」の集計作業を進めていることが報告され、次回の理事会で結果を発表することにした。



東京鉄構工業協同  
組合協力会会長  
石塚 勲

### 賛助会から協力会となって

07年3月23日、東京鉄構工業協同組合会議室において、組合池谷理事、松田理事と賛助会員との合同会議が行われ、従来からの賛助会から協力会として新たな第一歩を踏み出す運びとなりました。

当社をはじめとする賛助会員は、年々数が減り、当時6社となっております。私どももこのままではいけないとは思いつつも、何の手立ても講ぜず従来通りのお付き合いをして

参りました。そのような時、池谷・松田の両理事よりお声をかけていただきました。組合と賛助会のお互いがメリットの出る、本当の意味での共存共栄を図れる組織作りを考えよう……と。そして、今まで名ばかりだった賛助会を協力会として発足、さらには組合員の皆様のご協力をいただき協力会員数も大きく増やしていただきました。

私は、みなさま周知のごとく、まだまだ会長などという大役を果たせる器ではありませんが、協力会発足時の役員は旧賛助会員にて選出、会員の方々のご推薦により初代会長職を受け賜り今日に至る次第です。

協力会となり早1年が経とうとしております。まだまだ何も出来ていない状況ですが、初年度は、Mグレー

ド部会の研修旅行会への参加、理事会・支部会などでのPR活動、共済品の提案など、少しずつ組合員との距離を縮められたのではないかと思います。

今後は、組合行事への参加、良い商品や各種の情報提供など、一層、積極的に取り組んで行くと同時に、組合及び協力会の各社がともに繁栄できるようなご提案が出来れば……と、思います。その一手段として、将来、東京鉄構工業協同組合及び協力会共催で機械・工具等の展示会の実現を夢見る今日この頃ですが、組合員・協力会員の各社、皆様のご協力なくして何もできません。よりよい組合、協力会になるよう何卒お力添えをお願い申し上げます。

（富士見興業社長）

## 活発な事業展開を推進

### Mグレード部会

■6月21日、於・組合会議室■

鉄骨需要や市況、耐震補強工事の発注に伴うS N400B材の市中手配、電子入札など幅広いテーマで意見を交換。鋼材値上げや納期順延など『鋼材問題』について秋口から深刻な局面を迎えるとの認識で一致、とくに「厚板や関連製品の契約・納期には最善の留意が必要」とした。

■11月27日、於・組合会議室■

「改正建基法の影響で各社の山積み減少傾向にある」（池谷会長）とした。新法適用の確認審査物件の受注も散見できるものの、今後の需要見通しが不透明とし、情報交換の重要性を強調。また、H形鋼や切板、ビルトH、コラム材など鋼材価格のほか、ワイヤー等の副資材購入価格が上昇するなかで、肝心の鉄骨の受注単価が弱含みで推移、「慎重な契約が必要」とした。さらに、技術者雇用問題と中国研修生の受け入れなど幅広いテーマで意見を交換した。



### 全国Mグレード部会

■6月23日、於・栃木鬼怒川■

総会を開催。池谷会長は挨拶で「設立から約1年。群馬加入で会員は1都5県となり、構成員も117社となった。適正な鉄骨受注、品質の向上などの活動を推進していく」と述べた。PDでは①性能評価②情報交

換③業界の改善と将来展望をテーマに協議、パネラーが意見をとりまとめて発表、全体を総括した。

■12月14日、於・組合会議室■

幹事会を開き、来年に研修行事として那須ストラクチャー工業千葉工場を見学、6月中旬に山梨で第3回通常総会の開催を決めたほか、関東Hグレード協議会との合同幹事会の推進、部会会員名簿の更新を決定した。また、「品質管理責任者の兼務の取り扱い」について協議。品質管理責任者は品質管理技術者と兼務できるように全国鉄構工業協会に対し、要望書を提出することにした。



### 全国R・Jグレード部会

■11月9日、於・組合会議室■

全国R・Jグレード部会連絡会（二見法和・里見田工業社長）が定例役員会を開催。平成20年度通常総会を来年4月11日に京都で開くことを決めた。当日は、大阪、京都、東京、千葉、埼玉、群馬、山梨など各県鉄構組合のR・Jグレード部会会長らが参集。平成20年度総会の開催日程などを審議、議題や事業計画など来年2月の役員会で詰めることにした。

改正建築基準法の施行以降、確認の停滞で鉄骨需要の減少などを確認。とくに中小物件の建築確認の順延が顕著で「R・Jグレードの経営を直撃している」とする意見が相次いだ。

鋼材も市中手配が困難な鋼種もあり、受注時に「材料が揃うかどうか

見極めてから契約する必要がある」とや与信対策、改正建基法に伴う製作工場の認定書添付、耐震補強工事の仕様書特記、近隣県との交流など幅広いテーマで意見を交換。また、ファブ経営者の鉄骨管理技術者兼務問題は「われわれ、R・Jグレードの認定取得と経営にとって重大な問題」として要望書を作成し、全国鉄構工業協会に提出することに決めた。



### 他県ファブも参加し工場見学

■2月24日、於・足立区内■

東・中合同地区会を開催。東地区長の飯田副理事長が講師となり、25度レ形開先溶接の施工マニュアルをテキストに施工上のポイントや留意点を説明。また、賛助会員の勧誘や加入メリットを推進するための協力会組織の立ち上げなど組合活動状況を報告した。

■10月20日、於・府中市内■

西地区会を開催。建築基準法改正以降、ファブ各社の仕事量の激減を確認、山積み状況など情報共有化や協調の精神の重要性を確認した。池田理事長が「経営分析の見方・使い方」をテーマに講演。杉本地区長が組合活動の報告を行った。協力会会員各社も多数参加し、交流を深めた。



### 来賓、組合員ら80名が参集 盛大に設立20周年を祝う

当組合は1月23日、東京都新宿区のホテル東京で全国鉄構工業協会の山本康弘会長（トウジ工業会長）から来賓関係者、組合員、賛助会員ら計80名を集め、盛大に設立20周年記念祝賀会を挙行了した。

司会進行は飯田副理事長が担当。池田理事長のあいさつの後、池谷副理事長が前身である東京鉄構工業会の沿革を含み、組合設立20年の歩みを読み上げた。引き続き、全構協の山本会長、関東支部長の金井重夫支

部長（埼玉県鉄構業協同組合理事長）がそれぞれ来賓祝辞を行った。山本会長は、全国鉄構工業連合会設立当時との関係を説明し、「東京は、今の全構協を支えて頂いた組合。今後もご支援、協力を賜りたい」とし、金井支部長も「多大なる変遷を経て今日がある。20周年を機に組合員がさらに利益が上がるよう共に頑張っていこう」とエールを送った。

組合功労者表彰として金子升一前理事長に表彰状が、また照沼弘、内田三雄の両氏に感謝状が贈られ、鋼構造出版の田中正幸社長の乾杯の発声でパーティがスタートした。

会場にはピアノ、バイオリンなどアンサンブル演奏が流れるなど終始、優雅な雰囲気にもまれていた。



## 地区会員名簿

東地区(27社) 地区長 (株)中川鐵工所 中川内 伸吉

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	那須ストラクチャー株式会社	H	10	株式会社佐久間鉄工	R	19	株式会社市川スチールエンジニアリング	R
2	株式会社飯田製作所	M	11	城北工業株式会社	R	20	株式会社社工所	J
3	中央ビルト工業株式会社	M	12	鈴木鉄工建設株式会社	R	21	株式会社コイワ	J
4	株式会社中込工業所	M	13	有限会社高市工業	R	22	株式会社長谷川工業	J
5	株式会社前田製作所	M	14	株式会社角鹿鉄工	R	23	ヤナセ工業	未
6	吉岡工業株式会社	M	15	株式会社東洋鉄骨	R	24	株式会社奥村鉄構	未
7	株式会社谷村製作所	M	16	株式会社利根川鉄工所	R	25	有限会社矢萩鉄工	未
8	富士工業株式会社	M	17	林鉄工株式会社	R	26	中央鋼材株式会社	未
9	株式会社中川鐵工所	M	18	三進建鉄有限会社	R	27	アイ・テック	未

中地区(14社) 地区長 (株)帝都建工 井戸 弘忠

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	池田鉄工所株式会社	M	6	株式会社鎌建工業	R	11	株式会社三侑鉄工	R
2	日東鉄工株式会社	M	7	有限会社修和鉄工	R	12	大伸鉄工株式会社	未
3	松田鋼業株式会社	M	8	株式会社帝都建工	R	13	有限会社大橋鉄工所	未
4	わくた工業株式会社	M	9	井上鉄工株式会社	R	14	小久保鉄工株式会社	未
5	東京建鉄株式会社	M	10	有限会社金谷鉄工所	R			

西地区(22社) 地区長 (株)一本木鉄工 杉本 豊 相談役 (株)石郷岡工業 石郷岡 梅雄

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1	叶産業株式会社	H	9	株式会社一本木鉄工	R	17	株式会社河村鉄工所	R
2	川岸工業株式会社	H	10	株式会社酒多鉄工所	R	18	株式会社栗野鉄工所	R
3	株式会社矢嶋	H	11	有限会社坂爪建鉄工業	R	19	株式会社山上建設工業	R
4	株式会社石郷岡工業	M	12	島崎工業株式会社	R	20	近藤鉄工株式会社	未
5	小島工業株式会社	M	13	株式会社高水鐵工	R	21	株式会社佐々木鉄工所	未
6	日本鉄構建設工業株式会社	M	14	有限会社中央製作所	R	22	株式会社敏鉄工	未
7	有限会社天野鉄工所	R	15	有限会社橋本鉄工	R			
8	井戸建鉄株式会社	R	16	有限会社藤本鉄工所	R			

東京鉄構工業協同組合協力会員名簿

役	会社名	〒	住所	TEL	FAX	代表者 担当者	役職	業種・取扱商品
				E-mail				
幹事	大日本塗料販売㈱ 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 TOKYU REIT蒲田ビル8F	03-5710-4501	03-5710-4520	宮本和夫	課長	全構協指定塗料
				miyamoto-ka@star.dnt.co.jp		岡本裕介	錆止め塗料	
幹事	大同生命保険㈱ 首都圏地区営業本部	103-0027	東京都中央区日本橋2-7-4	03-3241-4311	03-3278-9676	永田 紀	営業本部長	生命保険
				hidumeyutaka@daido-life.co.jp		日詰 裕	共済保険	
監査 長	ダイニッカ㈱ 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀1-9-5	03-3552-3163	03-3552-3162	高岡鉄也		全構協指定塗料
				t-takaoka@star.dainikka.co.jp		川路幸祐	錆止め塗料	
会長	富士見興業㈱	166-0003	東京都杉並区高円寺南 1-27-11	03-3314-1430	03-3314-5818	石塚 勲	代表取締役	高圧ガス、溶材
				honbu@fujimikugyo.co.jp		蒲生統一郎	部長	
幹事 会 計	㈱アマダカッティング	224-0025	神奈川県横浜市都筑区 早瀬1-28-18	045-594-1923	045-591-9460	橋本文夫	副本部長	パントフ-用フレード
				fumio.hashimoto@amada.co.jp				
会 計	㈱ファーストクルー	111-0053	東京都台東区浅草橋 5-24-6NBK浅草橋ビル6F	03-5822-3544	03-5822-3554	鈴木 康	代表取締役	鉄骨専用
				fast@fastcrew.co.jp		辻川高士	課長代理	CAD/CAMシステム
会 計	㈱秋山商会	192-0151	東京都八王子市上川町 1128	042-654-7530	042-654-0777	秋山弘志		クレーンリース
会 計	㈱エース・オートリース	136-0074	東京都江東区東砂7-19-31 東京日産江東店内	03-3646-6151	03-3646-6158	土方 公	代表取締役	自動車リース
				k-takahashi@aal-net.co.jp		高橋和彦		
会 計	加研工業㈱	136-0071	東京都江東区亀戸5-23-6	03-3684-8031	03-3684-8042	吉川由巳	代表取締役	研削砥石製造販売
				takahashi@kaken.net		高橋 亨	取締役	
会 計	㈱伍商	198-0087	東京都青梅市今井3-5-10	0428-31-4125	0428-31-8581	佐々木博	代表取締役	金属加工(切り板)
				gosvo@marble.ocn.ne.jp		島津正昭		
会 計	サンコーテクノ㈱	270-0107	千葉県流山市西深井 1296-16	04-7178-3500	04-7178-5100	小西隆夫		建築金物製造販売
						中村		
会 計	㈱昭和塗料商会 東京営業所	101-0051	東京都千代田区神田 神保町2-36 小山ビル	03-3265-8951	03-3262-4570	伊東勝美	所長	塗料販売
				shwa-toryo-t@k2.dion.ne.jp		渡辺高紳		
会 計	青林保険事務所	110-0015	東京都台東区東上野 3-12-5 高野ビル3F	03-3839-7216	03-3839-7548	金子直行		生損保商品販売
				naiki@lka.att.ne.jp				
会 計	㈱星和	121-0052	東京都足立区六木2-6-27	03-3605-0817	03-3605-3521	北嶋重司	専務取締役	鋼材、建築資材
						星野傳弘	常務取締役	ボルト、ナット、仮設機材
会 計	㈱東栄化学	192-0032	東京都八王子市石川町 2973-3	0426-31-3801	0426-31-3808	中村正二	代表取締役	高圧ガス
						宮坂直樹		
会 計	所沢資材㈱	359-0032	埼玉県所沢市若松町852	04-2992-0231	04-2998-0570	本橋孝義	代表取締役	ベースバック
				tokosai-l@circus.ocn.ne.jp		小高進一		ハイベース
会 計	中村鉄興㈱	359-1164	埼玉県所沢市三ヶ島1-478	04-2948-0610	04-2949-2209	中村弘田郎	代表取締役	切り板
				ntk@viola.ocn.ne.jp				孔あけ
会 計	野村産業㈱	206-0812	東京都稲城市矢野口786-1	042-377-6352	042-378-0655	野村俊明	代表取締役	高圧ガス、溶材機器
								ハイテンションボルト
会 計	フルサト工業㈱	362-0808	埼玉県北足立郡伊奈町 大字小針新宿中島1295	048-728-8861	048-728-8868	丹羽新六	所長	鉄骨副資材
				f0232@furusato.co.jp				ボルト
会 計	㈱丸和	279-0025	千葉県浦安市鉄鋼通り 2-6-8	047-304-0811	047-304-0819	中畑守弘	代表取締役	高鋼板専門
				maruwa@checkerplate.co.jp		阿部孝典		鋼板加工
会 計	美鈴印刷紙工㈱	135-0033	東京都江東区深川2-24-11	03-3643-4485	03-3642-3265	飯島隆典	代表取締役	印刷・原寸用フィルム
				misuz-film-1@tokyo.email.ne.jp		佐藤智輝	係長	製造販売
会 計	有修溶工㈱	136-0071	東京都江東区亀戸9-35-16	03-3637-6251	03-3637-6253	前川修一	代表取締役	スタッド溶接工事
				stud@yu-shu.co.jp				材料販売

編集後記

昨今は「品格」流行りである。一昨年の「国家の品格」に始まり、これに続いた昨年の「女性の品格」さらに「親の品格」「男の品格」「会社の品格」……と続いている。このような中で、昨年はこの「品格」の裏返しとも言える事件：ミートホープに始まる「赤福」「船場吉兆」の食の「偽装」、はたまた大手製紙会社による古紙の配合率の「偽装」と続き、またまた偽装ではないが品格

皆無のNHK記者による株のインサイダー取引と続いた。翻って、鉄骨業界を見てみると、偽装問題は一昔前には一応卒業しているように見えるが、体質としては、まだまだ変革したようには思われない。この「品格」は広辞苑では「品位」「気品」とあり、「品位」は「人に自然にそなわっている人格的価値」とある。一連の「偽装」、鉄骨の品質問題の根源を考えると経営者の「品位」に行き着く。一連の経営者の会見を見ていると最終的には責を認めて謝罪しているが、そこに至るまでの経緯、「品位」から見ると本心は怪しいも

のである。「品位」とは、『自然にそなわっている』とあるとあり、記者に突っ込まれて数日間に変るようなものではない。また、「品格」について中日新聞の加藤編集局長が「欲を自分で抑えられること、欲を身の丈に合ったレベルに制御できること、さらに、ずるいことをしないことである」と書いているが、まさにそのとおりであると思う。談合問題、鉄骨の品質問題、安値受注(GC、ファブ)も結局は経営者の「品格・品位」に左右される。鉄骨業界ももう少し「品格・品位」のある業界になることを願っている。